

報告は2本でした。

報告1：特別支援教育における学習評価の方法と実態について 中隴 晃（手稲養護学校三角山分校）

高等学校から、特別支援学校に異動し3年目。「特別支援学校の学習指導要領『自立活動』に掲げられている学習活動と評価方法を知り、通常高校での指導計画や実践の際に見落としがちな点を検証する。」ことを目標にした報告であった。高校（集団への一斉指導）と、特別支援学校（個に応じた「自立活動」や教科別目標の設定）との違いから見えることを考察、議論をした。特別支援学校での教科指導では、成長への道筋を生徒毎に用意し、できないことをできるようにすることを大切にしている。高校において、教員が生徒に抱きがちな「努力不足」というみかたを捉え直す視点も共有した。

報告2：AIとICTの時代で変わるもの、変わらないもの 小笠原 孝司（北星学園大学附属高等学校）

AI、ICTの利点、問題点、棲み分けに関して、二項対立的な思考を避けながら検討をすることを目標にした報告であった。AIでの生成は、教員の授業デザイン作成において、学習や言語活動にて効果的な題材を効率的に生み出す手段として有効である。ICT利用は、生徒の学習効果を高める手段として効率的なものである。一方で、生徒の学習意欲を高めたり、生徒の成長意欲（理解したい、できるようになりたい）を促進したりするには、生徒の自尊心を尊重しつつ、生徒間のかかわりあい、教員からの適切な働きかけが不可欠と言えることを再確認できた。